
馬鹿ですが何か？

祿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿ですが何か？

【Nコード】

N9262Z

【作者名】

祿

【あらすじ】

まったりと生きてきたとある馬鹿と、それに比べてキチツと生きてきた男が、神の手違いで死んでしまう。
かわりにインフィニットストラトスの世界に転生させられることになる。

おまけに変な能力も付けられていた。

二人は、まったりと生きて行けるのか？

NEW

唐突だけが俺は思い付いた。

命は一つであり、人間に前世や来世など”次の人生”はないと。

人は死んだら、そのまま人格や記憶など消えて無くなる。

前世来世、天国地獄、転生蘇生などは人間の都合のいい妄想や想像でしかない…けっきょくは存在しないものだ。

「……………で、結局なにがいたいんだ？」

「やだなあ、てっちゃん。もうわかってるくせに」

はあ、とため息をつく友人を飛び越えて親友（仮）の佐久間哲（さくま てつ）、通称てっちゃんは、めんどくさそうな顔をしながら見てきた。
まあ…………あれだ。自己紹介しとくしますか。

「岡山^{みどり} 17歳男 乙女座で誕生日は想像に任せるとして血液型はO型だ。よろしくな！」

「誰に自己紹介してんだよ…………てかさっきのは何なんだよ」

「いやあ、バスの中ってひまじゃん？だから頭にポツと出てきたのがさっきのなのだ。で、一度しかない人生を無駄にせず、しっかりと生きていつてほしいって言いたいわけ」

「たまにいいことっぽいこと言うよな」

そんな雑談をしながら、てっちゃんの高校に向かって歩いている。
てっちゃん曰く、今日は文化祭なんだって、もう昼なのにここでも
にしてみたらどうね？

重役出勤とはなかなか偉くなったんだな。

「お前はほんとくと寄り道するからな。その間に日が暮れる」

「へー、そりゃ大変だったね？」

「お前のことだぞ！？」

ぼてぼてと歩いていると、横断歩道のだ真ん中に金色に光る円形の
なにかが目に入った。

てっちゃんは気づいてないみたいで、ぺらぺら何かを喋っている。

「（このまま気づかれないように確認して、500円玉だったら即
回収）」

「（こいつ絶対聞いてないな…今度は何を考えてんのやら）」

金色に光る円形のなにかの横を通り過ぎるときに横目で確認。
それは期待していた通りの500円玉だった。
車がこないのを確認して、すぐにしゃがみ込む。

「みどり危ない！」

「へ？」

横断歩道を渡ったところにいたてっちゃんが、すごく焦った顔をしていた。

右側がやたら騒々しくて、見てみるとトラックがこちらに突っ込んできていた。

避けようにも距離は25メートルくらいで、スピードも速くて、とてもじゃないけど避けられない。

「…………まじか？」

「ん？待てみどり。なぜ俺を掴む？」

「てっちゃんシールド！がぐ！」

「ぶるうわ！」

あえなくトラックと正面衝突。もちろん俺とてっちゃんは即死。

一度きりの人生をどうのこうの言ってた奴が友人というより、悪友に近いやつを道連れにするのは割と愉快（笑）

……い……か

「……………」

おき……かの……バカ……

「……………（いらいら）」

「おきんか！この馬鹿者！」

「うつせえな……人が気持ち良く寝てんのに耳元で騒ぐなよ、糞豚。殺されたくないなら黙ってる屑。食い殺すぞ！」

「……………（うるうる）」

「み、みどり？少し落ち着けよ、な？」

聞き覚えのある声がしたので、そっちに目を向けると悪友てっちゃんがたっていた。

……あれ？おかしいな……てっちゃんは俺が殺したはずなんだけど、何で元気に立ってんの？

「そついえばお前……俺を道連れにしてくれたよな？」

「記憶にないな。改ざんされたかも」

「あー。そのことなんじゃが……あれはわしのせいなのじゃ」

口調に似合わないような容姿をしている女性（仮）は、申し訳なさそうに罪を自己宣告してきた。

よく見るとセミロングの黒髪で小柄、モロ好みに当て嵌まる。

「あなたのせいってどういうことですか？」

「ちと手違いでトラックをお主に確実にぶつかる距離に置いてしまつてのう……まさか友人を盾に使う鬼畜な奴だとは思っておらんかったがな」

「だよねー、ちゃんと車がこないのを確認したのにトラックが来たのは不思議だったからね」

こん畜生……一度きりの人生をどうのこうのって語ったあとなのに無駄死にじゃないか。

てかこの人は何物？果物？たべていいのかい？

「食べれないから落ち着けみどり。話が進まない」

「わしは神じゃ。まああれじゃ、お主達を転生させることしか償えんが いいかの？」

「まあ生き返れるなら俺はいいですけど」

「（転生？さつき否定したばかりなのに実在するという新事実……これは新たに新みどり理論を考えなきゃ）」

新みどり理論を考えている間も、話し合いは進んで行った。交渉とかはてっちゃんにいつも任せきりなので、けっこう信賴してる。

いろいろ質問されたけど、てきとつに返事しといた。

「それじゃあ、転生させるぞい。準備はよいか？」

「はい」

「元の世界だよね？」

「いいや」

「え？」

てっちゃんの返答に驚いていると足元が光始めた。

てっちゃんに視線を戻すと、やりきったって顔で教えてくれた。

「俺達がいくのはインフィニットストラトス……ISの世界だ」

「まてまて！それは俺がまったりできないという最悪のフラグが立ってしまっじゃないか！」

神（仮）とてっちゃんは微笑んでゆっくりと口を開いた。

「「どんまい」」

「うるせええ！転生中止！やめい！」

必死の抵抗はむなく、光に飲み込まれた。

二人を転生させた神は二人の立っていたところを見つめてたたずんでいた。

そして自分の体を抱き、身震いすると顔を紅潮させてうつとりした。

「……ふふふ。みどり…か」

神はスウツと姿を消した。

次の瞬間にその空間は割れて無くなった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9262z/>

馬鹿ですが何か？

2011年12月28日23時46分発行